

ミナミクロダイの種苗生産

藤本 裕・金城武光*・山本隆司**

1. 目的

沖縄県栽培漁業センターの生産目標である60万尾（昭和62年度）を生産するため、技術開発と並行して生産を実施する。

2. 方法

親魚は、前年度より引続き養成していたものに、他槽から追加し合計35尾（昭和62年12月3日、平均尾叉長 34.8 ± 2.8 cm・平均体重 1.11 ± 0.25 kg、年齢雌雄比不明）となった。

使用した水槽は上屋付屋外水槽（飼育水量 25m^3 ）で、餌料はマダイ用配合飼料にビタミン剤を添加して投与した。

採卵は、夕方ネットを設置し翌朝回収して小容器に収容し、沈下卵等を除去後重量法（ $1,800$ 粒/g）で卵数を算出した。

仔魚飼育水槽は上屋付屋外水槽（飼育水量 45m^3 ）3面を使用した。

使用した餌料はワムシ及びマダイ用初期飼料、魚卵である。ワムシはナンノクロロプシス単独あるいは油脂酵母との併用で14～18時間栄養強化して1～3回/日、10～15個体/mlになるよう投与した。

マダイ用初期飼料及び魚卵は適宜水槽全面に散布した。

3. 結果及び考察

産卵は2月2日に始まり5月2日に終了した。その間70回の産卵があり合計約1,900万粒採卵した。産卵のパターンはほぼ例年通りで3～4月ピークであったが、採卵量は前年度に比べ大幅に減少した。

種苗生産結果を次表に示した。

今年度は3区の仔魚飼育を行った。1、2区は、日令（全長約13mm）まではほぼ順調に推移したが、以後日令42、43日の取り揚げまで連日5,000～35,000尾の原因不明の斃死が続き、取り揚げ尾数、生残率ともに前年度を若干下回る結果となった。このような斃死は前年度もほぼ同様なことがあり全長10mmを超えてからの飼育方法について検討する必要がある。3区は、日令19日（全長約7mm）に水中に漂う大量の斃死魚が確認され生残魚も活力がなく肛門から糞が引く仔魚が散見された。その後数日間で壊滅的な状態となったが原因不明である。

*：現所属：水産試験場

**：現所属：水産試験場八重山支場

昭和62年度ミナミクログダイの収容と種苗生産結果

項目 区分	収				容				取						揚	備考
	飼育水量 (m^3)	月 / 日	卵数 (千粒)	ふ化 仔魚数 (千尾)	ふ化率 (%)	密度 (千尾/ m^3)	卵径 (\bar{X} μ)	月 / 日	日令 (日)	尾数 (尾)	密度 (尾/ m^3)	生残率 (%)	平成全長 (\bar{X} \pm SDmm)	期間中の 水温 ($^{\circ}C$)		
1	45	3/19, 20, 21	883	609	68.9	13.5	899~912	5/1	42	215,000	4,778	35.3	16.9 \pm 2.2	16.3~22.8		
2	45	3/29, 30, 31	1,105	951	86.1	21.1	899~917	5/12	43	172,500	3,833	18.1	17.5 \pm 3.1	18.8~23.7		
3	45	4/1, 2	1,093	994	90.9	22.1	897~900	5/12	40	31,000	689	3.1	17.6 \pm 2.6	18.7~23.6	日令21日 大量減耗	
合計	135		3,081	2,554	82.9	13.5~22.1	897~917			418,500	689~4,778	16.4	16.9~17.6			